

令和 3 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
761760	
選定番号	139

代表者 校園名： 大阪市立長橋小学校
 校園長名： 原田 哲次
 電 話： 06-6561-4692
 事務職員名： 岡田 歩美
 申請者 校園名： 大阪市立長橋小学校
 職名・名前： 首席・中山 隆史
 電 話： 06-6561-4692

令和 2 年度 「がんばる先生支援」 研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	学力に課題のある児童に対する国語科における「読む力」の育成 —主体的な読書活動を通して—			
3	研究目的	○学力に課題のある児童の「読む力」の育成 ○主体的に読書活動に取り組む児童の育成 ○教員の授業力向上に向けた先進的な国語科研修会への参加 ○教員の児童理解を深めるための専門的研究者による研修会・講演会の開催			
4	取り組んだ 研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 10pt イント)</p> <p>1) 国語科における授業研究の計画・立案 4月24日・5月20日（今年度の年間研究計画・研究主題の設定）</p> <p>2) 授業研究を通じた国語科における授業力の向上 6年：9月28日 4年：9月8日 2年：10月28日 3年：11月18日 1年：12月17日</p> <p>3) 全市公開授業(5年)・講演会を開催し、国語科の指導力を向上させる。 11月19日 参加者約30名 講師：神戸常磐大学教授 ・今年度の「がんばる先生支援」研究支援の中間報告会を行った。 ・授業研究と講演会を通して課題のある児童に対する手立てを検討した。</p> <p>4) 国語科の物語文の関連書籍を購入 ・各学年で並行読書や多読を実施。 ・読書へ向かう意欲や読む力の育成につなげる。</p> <p>5) 読書環境づくり ・地域図書館との連携で、学級図書や単元の関連書籍を充実させる。 ・図書室におすすめ図書や本の紹介を掲示し、児童の読書意識を高める。</p> <p>6) 授業力向上に向けた先進的な国語科研修会への参加 ・筑波大学附属小学校 初等教育研究会</p> <p>7) 専門的研究者による研修会・講演会の開催 ・9月8日 11月19日 2月18日 神戸常磐大学教授 ・1月8日 桃山学院大学教授</p> <p>8) 校内における研究報告会の実施 2月18日 研究報告会 参加者約20名 ・今年度の研究の成果と課題をまとめ、次年度に向けた取り組みを提案する。</p>			

		<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p>【見込まれる成果1】</p> <p>○国語科の読書活動を取り入れた授業づくりに関する研究を進めることにより、児童の「語彙力の向上」と「読む力の向上」に取り組む。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査において、前年度と比較し、国語科の「知識・技能」に関する項目で3ポイント上昇させる。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>今年度、経年調査の結果が間に合わなかったため、校内で実施した学力アンケートの「国語科の勉強はわかりますか」の質問項目で検証と考察を行うこととした。</p> <p>「国語科の勉強はわかりますか」の質問項目に対する肯定的な回答結果</p> <p>6月 89% ⇒ 2月 94%</p> <p>肯定的な回答が90%を超えた。</p> <p>課題のある児童への支援を検討し実践することが、すべての児童にとっても分かる支援になっていたと考えられる。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <p>国語科の物語文の単元において関連書籍を購入し、並行読書や多読につなげる。また、学級図書を充実させ、読書環境づくりを進める。それらの取り組みが、児童の読書への意欲を高める結果につなげる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>校内アンケートの「読書は好きですか」の質問項目において、児童の肯定的な回答を85%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>「読書は好きですか」の質問項目に対する肯定的な回答結果</p> <p>一昨年度 75% ⇒ 昨年度 83% ⇒ 今年度 91%</p> <p>肯定的な回答が目標であった85%を超えることができた。</p> <p>昨年度から研究を継続し、読書活動の推進を研究の柱にして今年度で2年目となる。関連書籍を購入し並行読書や多読の推進。地域図書館と連携を図り学級図書の充実。図書館の本を紹介するコーナーを新設し、読書したくなる環境づくり等の取り組みが、結果につながったと考えられる。</p>
5	成果・課題	<p>【見込まれる成果3】</p> <p>読書活動を通して自分が考えたことや感じたことを交流する場を設定することにより、多様な考えに触れて学びが深まると実感できるようにする。</p> <p>《検証方法》</p> <p>事前と事後に児童アンケートを実施し、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか。」の質問項目において肯定的な回答を5ポイント上昇させる。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか。」の質問項目に対する肯定的な回答結果</p> <p>昨年度 76% ⇒ 今年度 91%</p> <p>肯定的な回答が目標を大きく上回り15ポイント上昇させることができた。</p> <p>今年度の研究で、ペア・グループ活動の充実を検討した。自分と友だちの意見を交流することにより、自分の考えとの違いや新しい発見に気付くことができ、考えを深めることができたことが、結果につながったと考えられる。</p>
		<p>【見込まれる成果4】</p> <p>先進的研究校の視察や授業研修会を定期的に行い、教員の国語科の授業力を向上させる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員へのアンケートを実施し、「研修会に参加して、国語科の授業づくりに役立った」の肯定的な回答を、85%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>「授業研究や研修会への参加は、国語科の授業づくりに役立ちましたか」の質問項目において肯定的な回答結果</p> <p>肯定的な回答は100%という結果で、目標の85%を上回ることができた。</p> <p>授業研究会を定期的に行うと共に、授業研究に向けた校内での授業検討会、専門的講師を招聘した授業づくりや新聞の活用などについて学ぶ機会を設けた。その結果、教員の授業づくりに役立てることができたと考えられる。</p>

研究コース

グループ研究A

選定番号

139

代表校園

大阪市立長橋小学校

校園長名

原田 哲次

5	成果・課題	<p>【見込まれる成果5】 先進的研究校の視察や授業研修会を定期的に行い、教員の国語科の授業づくりの意欲の向上に取り組む。</p> <p>《検証方法》 教員へのアンケートを実施し、「今後も研修会に参加したい」の肯定的な回答を、85%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察] 「今後も研修会があれば参加したいですか」の質問項目において肯定的な回答結果 肯定的な回答は100%という結果で、目標の85%を上回ることができた。 先進的な研究校での研究会への参加や、専門的講師の方の研修会や講演会を通して、教員の国語科授業づくりに役立てことができ、さらに学ぼうとする意欲につながったと考えられる。</p> <p>【見込まれる成果6】</p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p>																				
		<p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>今年度は、『学力に課題のある児童に対する国語科における「読む力」の育成—主体的な読書活動を通して—』を研究主題とした研究の2年目であった。</p> <p>本研究を通して、児童の国語の学習の理解が深まった。また、物語教材の単元に読書活動を取り入れたり、読書環境を整えたりすることにより、児童の読書への意欲を高めることができた。児童が育ってきた背景には、教員の地道な国語授業の研修や授業研究の実践の積み重ねがあったからだといえる。長橋小学校の全教員が、課題のある児童に対する国語科における読む力をつけていこうという思いと、授業力を高めていこうとする向上心をもつことができたことも、本研究を通した大きな成果といえる。</p> <p>課題としては、語彙力を向上させる手立ての充実があげられる。今年度、読書に対する意識は向上したが、使用語彙や理解語彙が身に付いているかといえば、十分に身に付いているとは言えない。そのため、今後は、言葉探しや類語集めなど、遊びのような感覚で楽しんで行える語彙を増やす活動を取り入れていきたい。</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>2年目の研究を通して、学力に課題のある児童への特別な支援のあり方等について、視聴覚支援や学習カード、授業における言葉掛けを工夫し、全教職員で共通理解を図るよう取組を進めてきた。学習アンケートでは、授業に対するイメージが肯定的な方向へと変容し、「学ぶ」態度にもよい傾向が多く見られるようになってきた。単元テスト等による目標達成においては、十分とはいえないまでも改善の兆しが見え始めているのも事実である。子どもたちの読解力の向上は今後の粘り強い取組の継続にかかるといふと思われるところから、校内での研究をさらに深化・発展させていきたい。</p>																				
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</td> </tr> <tr> <td>日程</td><td>令和 3 年 2 月 18 日</td><td>参加者数</td><td>約 20 名</td><td></td></tr> <tr> <td>場所</td><td colspan="4">大阪市立長橋小学校</td></tr> <tr> <td>備考</td><td colspan="4"></td></tr> </table>	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。					日程	令和 3 年 2 月 18 日	参加者数	約 20 名		場所	大阪市立長橋小学校				備考				
研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。																						
日程	令和 3 年 2 月 18 日	参加者数	約 20 名																			
場所	大阪市立長橋小学校																					
備考																						